

主催：NPO法人AHPネットワークス

助成：公益財団法人トヨタ財団

外国人介護士を育てる。

開催趣旨

海外から介護士の受入れが進んでいます。
彼、彼女らと私たちがお互いに良い刺激を与え合う関係が大切と思います。
日本人職員とどのように協働していくか、お互いにどのような学びが必要か、
教育費用はコストか投資か、法人独自の教育システム構築や日本語教育
多文化共創のアプローチなど、多様な課題に豊富な経験からお話いただきます。

セミナー
参加無料

開催日時：2022年 **2月26日(土)**

14:00～17:00

***オンライン開催(ZOOM)
150名**

プログラム

- ① 基調講演 「大阪介護留学生支援プログラム～成功へのアレンジメント～」
光山 誠氏 医療法人敬英会理事長、社会福祉法人敬英福社会理事長
(公社)全国老人保健施設協会人材委員会人材対策部会長
- ② 事例報告 「好事例 HAYAMAモデル — 留学生・地域・学校・行政をつなぐ」
岡田 智幸氏 奈良東病院事務局長、奈良東病院グループ本部事務部長
海外事業調整役
- ③ 事例報告 「ベトナムの医療系大学との介護教育連携12年の歩み」
原 国芳氏 社会福祉法人千寿会理事・本部事務長
- ④ 研 究 「外国人介護士育成に新たな日本語教育アプローチを」
神村 初美氏 ハノイ工業大学外国語学部日本語学科長・准教授
看護と介護の日本語教育研究会副代表幹事
- ⑤ 提 言 「多文化共創ケアと幸福な老い」
川村 千鶴子氏 大東文化大学名誉教授、多文化社会研究会理事長

*モデレータ：二文字屋修(NPO法人AHPネットワークス)

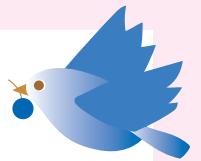


◀ **参加登録はこちらから**

諸般の事情により登壇者に変更が生じることが
ありますので、予めご了承ください。



登壇者プロフィール



光山 誠 氏

医療法人敬英会理事長、社会福祉法人敬英福祉会理事長
公益社団法人全国老人保健施設協会人材委員会人材対策部会長
立命館大学大学院経営管理研究科(MBA)講師(非常勤)(介護経営)

「大阪介護留学生支援プログラム～成功へのアレンジメント～」

2008年のEPA(経済連携協定)による介護福祉士候補生受入れの制度開始時期より将来的には外国人介護人材の重要性が増すであろうと予想していた。インドネシア、フィリピンに続く3番目のベトナムに将来性を感じ、その後、様々な縁を得て関係性を深めつつ現地の複数の大学や日本語センターと連携しつつ、大阪介護老人保健施設協会の有志とともに2018年に「大阪介護留学生支援プログラム」を設立した。2022年1月現在、受入れ累計127名(現在114名)程度ではあるが、コロナ禍でも地道にプログラムを継続している。今回の講演では、行政や日本語学校や介護福祉士養成校を巻き込んで、業界団体が主導的に外国人介護人材の受け入れを続けている経緯について話したい。

原 国芳 氏

社会福祉法人千寿会理事、本部事務長

「ベトナムの医療系大学との介護教育連携12年の歩み」

社会福祉法人千寿会のベトナムにおける介護人材育成プロジェクトは、2010年9月から開始した。本プロジェクトの特徴はベトナム中部の看護系大学と協定を結び、大学内に日本語・介護クラスを設置してじっくりと教育する点で、現在も継続している。これまでに合計130名以上の学生を輩出し、千寿会でも現在26名ほどのベトナムEPA職員が活躍している。千寿会にとって、海外組織との付き合いは全くの初めてであり、現在までに多くの課題が発生し、試行錯誤を重ね、何とか事無きを得てきた。ありがちな安い労働力ではなく、日本人と同等として千寿会では受入れを継続してきている。そのような中、優秀な人材を育成し、彼ら/彼女らの更なる活躍を期待している。しかしながら、思うようには上手くいかない現状もあり、これらの課題も含めて共有したいと思います。

川村千鶴子 氏

大東文化大学名誉教授、多文化社会研究会理事長
東アジア経営学会国際連合産業部会、NPO太平洋協力機構顧問
著書:『異文化間介護と多文化共生』(共編著)明石書店2007
『多文化都市・新宿の創造—ライフサイクルと生の保障』(単著)
慶應義塾大学出版会
『多文化「共創」社会入門』(共編著)慶應義塾大学出版会2016
『いのちに国境はない—多文化「共創」の実践者たち』(編著)
慶應義塾大学出版会2017
『多文化共創社会への33の提言』(編集代表)都政新報社2021他

二文字屋修 (モデレータ)

NPO法人AHPネットワークス執行役員
1994年から2008年まで「ベトナム人看護師養成支援事業」に携わる。
2018年ベトナム語版「老年看護介護」出版委員として関わる。
主著に川村千鶴子編「多文化共創社会への33の提言」外国人介護士の項担当(都政新報2021)、宮崎里司編「外国人看護・介護人材とサステイナビリティ持続可能な移民社会と言語政策」第4部第5章担当(くろしお出版2018)、神村初美編「介護と看護のための日本語教育実践」第4章担当(ミネルバ書房2019)。

岡田智幸 氏

奈良東病院事務局長、奈良東病院グループ本部事務部長
海外事業調整役

「好事例 HAYAMAモデル—留学生・地域・学校・行政をつなぐ」

当グループは、将来の介護人材不足は必至であることからその対策と、またとりわけ奈良県における介護施設の事業者の雇用に少しでも役に立ちたいという思いから、旧奈良市立吐山小学校(2017年3月に廃校)の跡地に行政と地域の協力を得て、外国人留学生が学ぶHAYAMA International Language School(日本語学校)と奈良介護福祉中央学院(介護福祉士養成校)を2020年4月に開校しました。

養成校での授業は、留学生に対し日本語での授業を進めますので日本語教育は重要であり、当校のように日本語学校と介護福祉士養成校が同時に学べる学習環境は我国でも今後スタンダードになっていくかと考えています。また、地域に密着した学校づくりをめざしており、地域行事への参加、地域住民の雇用、近隣の介護施設等での人材不足に貢献といった地方創生モデルとしてもたいへん特徴的な学校となっています。

神村初美 氏

ハノイ工業大学外国語学部日本語学科長・准教授
看護と介護の日本語教育研究会副代表幹事

著書:『介護と看護の日本語教育実践—現場の窓から』(単編著)ミネルヴァ書房2019、『外国人看護・介護人材とサステイナビリティ—持続可能な移民社会と言語政策』(共編著)くろしお出版2018他。

「外国人介護士育成に新たな日本語教育アプローチを」

国内の介護人材不足を受け、ベトナムにおいては、国家試験の合格率が90%を超えるEPA候補者をはじめ、技能実習、特定技能、介護留学にも期待が高まっています。どの枠組みを経て来日しても日本語の運用能力は大きな課題の一つとなります。この課題に対し人材選流型の日本語教育を提唱したいと思います。これは、「先輩から後輩へ」「日本から海外そして日本へ」と経験が選流する仕組みを組み込んだ国境や世代を越えて繋がる日本語教育です。なぜ、人材選流型の日本語教育を提唱するのか登壇者の研究成果からお伝えするとともに、この課題に対し皆さんと一緒に議論したいと考えています。

「多文化共創ケアと幸福な老い」

訪問介護に助けられながらの家族介護歴30年、その間、国内外の多文化共創ケアの実態と本質を探究。介護によって加齢の価値を知り、高齢期が人生の「統合」であることを認識します。多文化共創ケアは、生の保障と幸福な老いに繋がり、介護士にとって自己実現に向かう人間形成の重要なプロセスでもあります。ケアは多様な人生観とウェルビーイングへの気づきをもたらします。人材育成と共創経営にも示唆的です。

NPO法人AHPネットワークス

医療法人柏葉会柏戸病院(千葉市)、医療法人弘仁会板倉病院(船橋市)、医療法人弘仁会ロータスケアセンター(船橋市)、社会医療法人社団さつき会袖ヶ浦さつき病院(袖ヶ浦市)、社会福祉法人さつき会袖ヶ浦菜の花苑(袖ヶ浦市)、医療法人社団永生会永生病院(八王子市)、医療法人赤枝会赤枝病院(横浜市)、社会福祉法人千寿会(瑞浪市、浜松市)、メディケアリンク株式会社(大阪市)、医療法人健和会奈良東病院(天理市)、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院(福山市)、国際協力サービス・CICS(ホーチミン市)

